

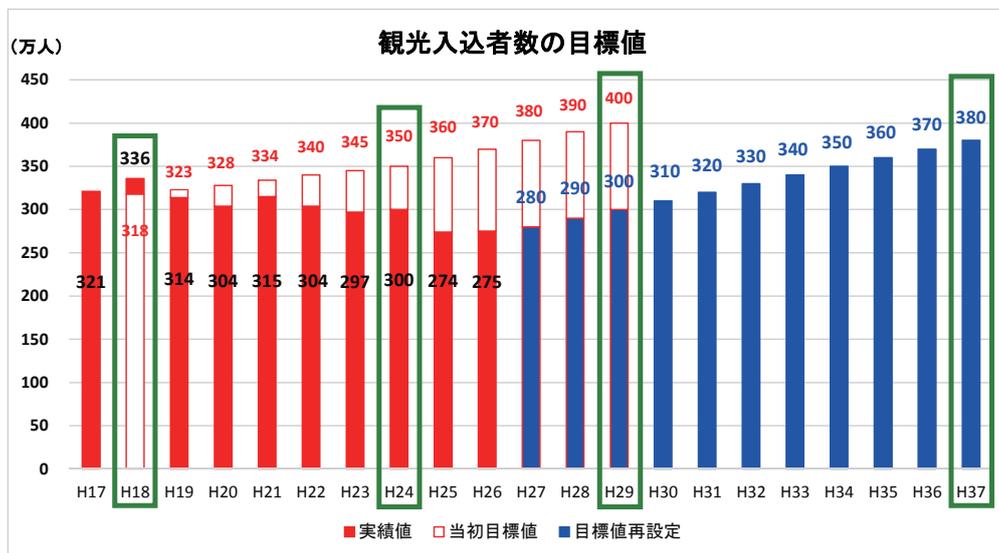
第6章

事業の中長期目標

(1) 観光戦略の目標年と目標値

観光戦略の期間については、平成28年度から平成37年度とし、「中期計画」は5年、「長期」は10年とする。最終的な目指すべき観光の姿については、10年後の姿として戦略づくりを行う。

目標値については、観光入込者数の数値は酒田市観光基本計画の数値目標の伸び率を踏襲するものとするが、観光入込者数の現状を考慮した上で、平成28年度以降の目標値を下図のとおり見直し、計画最終年度にあたる平成37年度の目標値としては現時点から100万人増の380万人と設定する。



*当初目標値は、酒田市観光基本計画による

<参考>

◆目標指標(酒田市総合計画後期計画より)

項目	算出方法	策定時 (18年度)	23年度 実績	5年後目標 (24年度)	10年後目標 (29年度)
観光施設等入込数	入込実績	3,181千人	3,055千人	3,500千人	4,000千人

◆目標指標(酒田市観光基本計画より)

項目	算出方法	平成18年度	平成24年度	平成29年度
観光入り込み数	入込実績	318万人	350万人	400万人

また、既存の観光入込者数の指標だけでなく、同時に観光客の満足度を高める。来訪者調査結果から、全体で80.2%の満足度を90%以上に、各施設ごとの満足度についてもそれぞれ向上を図る。

◆目標(満足度)

	今回調査(来訪者調査)	目標値
全体満足度	80.2% →	90%以上
山居倉庫	86.9% →	95%以上
海鮮市場	64.7% →	85%以上
土門拳記念館	82.7% →	95%以上
山王くらぶ	89.8% →	95%以上
日和山公園	55.5% →	80%以上

*満足度=「大変満足」「満足」「やや満足」の合計値

*この他、宿泊施設の売上高の推移などを目標値に設定する。

(2) 観光戦略の進捗・目標管理

プランの見直しのプロセスにおいては、毎年度ごとにいわゆるPDCAサイクル、すなわち Plan (計画) —Do (実施) —Check (評価) —Action (改善) を繰り返すことにより、事業の評価と改善を行い、着実な事業展開を担保する。

観光戦略の達成状況及び進捗状況を毎年度検証し、酒田市の観光を取り巻く環境変化や社会情勢の変化を踏まえ、随時かつ柔軟に見直し修正を図る。そのため、毎年度ごとに、PDCAサイクルによって施策を見直し、現実に即したプランを検討する。

また、同様に目指すべき目標についても、柔軟かつ現実的に対応を図るため、実現可能な目標として現実的な数値に変更する。

具体的には、行政が主体となり進捗管理を行うが、施策については随時追加・修正等を加え、場合によっては事業方法や施策を転換するなど積極的な見直しを行いながら、着実に観光振興を進めていかなければならない。

